

## CMM[R] v1.1 TR-25 公式日本語版 正誤表 No. 1

### (J1.0→J1.0.1)

#### 1. この文書について

この文書は、「能力成熟度モデルのキープラクティス」1.1版（SEA CMM研究会公式日本語版:ISBN 4-916227-05-0）に対する正誤表です。この「正誤表No. 1 (J1.0→J1.0.1)」は、1999年5月に公式日本語版がリリースされて以降の変更要求のうち、修正が適当であると認められた要求を反映するためのものです。

#### 2. 修正の概略について

今回の修正事項は、誤植レベルのものに限定されています。用語や基本的な表現等に関わる大きな変更については、公式日本語版としての安定性を損なう恐れがあるため、一定の期間（1年半程度）の後、まとめて反映されます。実際には、そのような大規模改訂の時期は、CMMの次バージョンの動向と合わせて検討されることになります。

#### 3. バージョン番号について

正誤表のリリースに伴い、以下のようにバージョン番号を付与することにしました。

表 1. CMM公式日本語版のバージョン番号について

名称 (バージョン)	リリース時期	日本語版リリース内容	対応する英語版
CMM V1.1 - J1.0	1999年5月	最初のリリース ・ PDF ・ PDFの印刷物	CMU/SEI-93-TR-25 (CMM V1.1)
CMM V1.1 - J1.0.1	1999年9月	今回の修正 ・ 正誤表No. 1 (J1.0→J1.0.1)	

今回のような小規模の修正については、1.0.1、1.0.2のように3桁目の数字を+1します。大規模の改訂を行った場合には、1.1のように2桁目の数字を+1する予定です。

## 4. 修正の内容

表 2. V1.0→V1.0.1 への修正箇所

項番	CR-ID	ページ	KPA, 問題箇所	原文	修正内容 (下線部分が修正箇所)
1	1128 -1	0-35	4.1: 一段落: 一行目	キープラクティスを規定することは、特定のソフトウェアライフサイクルモデル、特定の組織構造、特定の責任分担、または開発に対する特定の管理や技術のアプローチを、要求したり支持したりすること意図していない。	キープラクティスを規定することは、特定のソフトウェアライフサイクルモデル、特定の組織構造、特定の責任分担、または開発に対する特定の管理や技術のアプローチを、要求したり支持したりすることを <u>を</u> 意図していない。
2	1133 -1	L2-35	コモニティーチャの表題	実施する活動	実施 <u>される</u> 活動
3	1134 -1	L2-55	活動9 トップレベル	外注先のソフトウェアエンジニアリングの成果と結果を取り上げるための正式レビューは、選択されたマイルストーンで、文書化された手順に従って開催する。	外注先のソフトウェアエンジニアリングの成果と結果を取り上げるための <u>公式</u> レビューは、選択されたマイルストーンで、文書化された手順に従って開催する。
4	1134 -1.1	A-36	活動9	外注先のソフトウェアエンジニアリングの成果と結果を取り上げるための正式レビューは、選択されたマイルストーンで、文書化された手順に従って開催する。	外注先のソフトウェアエンジニアリングの成果と結果を取り上げるための <u>公式</u> レビューは、選択されたマイルストーンで、文書化された手順に従って開催する。
5	1137 -2	L3-2	コミットメント 1 サブレベル	この組織方針で明記される典型的な事項	この <u>方針</u> で明記される典型的な事項
6	1138 -1	L3-11	解説 二段落 一行目	『組織プロセス定義』に必然的に含まれる活動には、「組織の標準ソフトウェアプロセス」およびこれに関連するソフトウェア資産を開発すること、そしてそれらを維持することが挙げられる。	『組織プロセス定義』に必然的に含まれる活動には、「組織の標準ソフトウェアプロセス」およびこれに関連する <u>プロセス</u> 資産を開発すること、そしてそれらを維持することが挙げられる。

7	1138 -1.1	A-44	解説 二段落 一行目	『組織プロセス定義』に必然的に含まれる活動には、「組織の標準ソフトウェアプロセス」およびこれに関連するソフトウェア資産を開発すること、そしてそれらを維持することが挙げられる。	『組織プロセス定義』に必然的に含まれる活動には、「組織の標準ソフトウェアプロセス」およびこれに関連する <b>プロセス</b> 資産を開発すること、そしてそれらを維持することが挙げられる。
8	1139 -1	L5-20	コミットメント1トップレベル	組織は、技術能力の改善に関して、明文化された組織方針に従う。	組織は、技術能力の改善に関して、明文化された <b>方針</b> に従う。
9	1141 -1	A-114	「進捗」	進捗	進捗の <b>確認</b>
10	1141 -2	A-122	「進捗」	進捗	進捗の <b>確認</b>
11	1144 -1	0-29	一段落 四行目	しかし、他のコモンフィークチアに属すキープラクティスも同様に重要であり、これらは、キープロセスエリアを支援し制度化するために何が必要かを挙げている。	しかし、他のコモンフィークチアに <b>属する</b> キープラクティスも同様に重要であり、これらは、キープロセスエリアを支援し制度化するために何が必要かを挙げている。

[R] Capability Maturity Model and CMM are registered in the U. S. Patent and Trademark Office.